

AMIN初級医療マッサージガイドライン (案)

AMINガイドライン作成委員会

AMIN医療あん摩ガイドライン作成の経緯と目的

AMINはアジアの視覚障害者がマッサージ技術を修得し、それを活かして生活自立をすることを目的とする。そのために、マッサージのインストラクターを養成すると共に、マッサージがその国に根付き、また、国に認められた職域として定着出来るよう、各国の関係者が連絡を取り合い、協力し合って、活動を行っている。

AMINが日本財団の助成金で設立されたのは、2006年4月であった。それ以来、アジア域内の各国・地域において、域内の視覚障害者の状況を調査・把握し、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴルなどでマッサージ講習会を実施するなどの活動を行ってきた。また、AMIN推進委員会が筑波技術大学内にあるため、AMINの実施する講習会用のテキストとして日本医療あん摩に基づいた『アジア視覚障害者医療あん摩テキスト』を作成し、講習の際のテキストとして活用すると共に、各国で独自に学習するための教材としての役割も持たせた。

これらの活動を通して、各国で日本の医療あん摩を実践し、職業自立を目指すために次に必要なことは、各国で学習を行える場を作ることやそれを指導する人材を育てること、また、各国に社会的に認められる免許制度を作り、法的にも認められることである。その免許制度を実現するためにも、教育年限、カリキュラム、免許が目指すもの、就業見込み、需要の把握など、より具体的なものが求められる。

1. 本ガイドラインのレベル

世界保健機関（WHO）は、国の健康サービスにおいて、安全で、有効な医療、製品、施術の適正利用を世界の国々と協力し、支援している。医療あん摩に関しては、日本あん摩マッサージ指圧ガイドライン作成委員会が、禁忌症の情報を含め、教育や業務の安全な実施に関するガイドラインを作成している。

それは、下に述べるように、現行の日本の国家資格に準じたレベルを想定している。しかし、アジア各国の実情を考慮すると、日本の国家資格のガイドラインは利用しづらいのが現状である。

そこで、アジアの実情に合わせ、教育の内容や時間、実施の方法もより導入しやすい内容とし、日本の国家資格がいわば上級とすると、本ガイドラインは初級のレベルと考えている。

2. AMINガイドラインが提示するもの

- ① 本ガイドラインが示す医療あん摩という語は、日本において、国家資格として認められている「あん摩、マッサージ、指圧」のすべてを意味する。
- ② 通常日本の国家資格を取得するには、高校卒業後3年以上、指定された養成機関で学んで卒業した後、国家試験に合格する必要がある。その修得時間は約3000時間にのぼる。
- ③ AMIN が作成するガイドラインは約1000時間であり、日本の国家資格に必要な時間と比較すると初級の内容を示したものである。
- ④ これは、アジアの発展途上国の教育水準等の実情に鑑み、医療・保険領域において就労する医療あん摩師を要請するために必要な最低限の履修時間として定めたものである。
- ⑤ 従って、この時間は、その後の2000時間の学習を目指すことを前提とし、基本的訓練に関する初歩的かつ保健的な施術が安全に行えるレベルを想定している。

表2 初級医療按摩カリキュラム(案) 指導内容				
大項目	中項目	小項目	指導事項	時数
分野:現代医学の基礎				
内容:人体の構造と機能				計80
目標:あん摩・マッサージ・指圧に必要な人体諸器官の形態と構造及び機能を相互に関連付けて理解させ、これを施術に応用する能力と態度を育てる。				
1. 生体観察と体表解	1) 生体観察の意義 2) 体表解剖の概要	(1) 体表の区分と境界	頭部 頸部 胸部 腹部 背部 会陰 上肢 下肢	20
		(2) 体部の細分	頭部(狭義の頭部と顔面) 頸部(前頸部、胸鎖乳突筋部、後頸三 胸部(前胸部、側胸部) 腹部(前腹部、中腹部、下腹部) 背部(後頸部、脊柱部、肩甲間部、肩甲 部、肩甲下部、腰部、仙骨部) 会陰部(外陰部、狭義の会陰、肛門部) 上肢(上肢帯、自由上肢) 下肢(殿部、大腿部、膝部、下腿部、足	
	3) 解剖学的姿位と体位	(1) 解剖学的姿位 (2) 体位の種類		
	4) 解剖学的な基本用	(1) 解剖学的記述用語	前方と後方 上方と下方 内側と外側 前縁と後縁 上縁と下縁 内側縁と外側縁 内面と外面 内層と外層 深層と浅層 近位と遠位 橈側と尺側	

			掌側と背側 底側と足背側		
		(2) 体表や器官の位置を表す用語	前額面、矢状面、水平面		
		(3) 臨床的に重要な水平面	胸骨角平面、胸骨剣状突起平面、臍水平面、健康局水平面、肩甲骨下角水平面、肋骨下水平面、ヤコビー線		
		(4) 臨床的に重要な架線	前正中線と後正中線		
			鎖骨中線		
			腹中心線		
			肩甲線		
			腋窩線		
		(5) 運動方向を表す用語	矢状軸、前額軸、垂直軸		
			屈曲と親展		
			内転と外転		
			内旋と外旋		
2. 人体の構造と機能の概要	1) 生体の基本構造	(1) 細胞			60
		(2) 組織の種類と機能			
		(3) 機関と器官系	骨格系 筋系 脈管系 消化器系 呼吸器系 泌尿器系 生殖器系 内分泌系 神経系 感覚器系		
	2) 骨格系の構造と機能	(1) 骨の形状による分類	長骨 短骨 扁平骨 含気骨 混合骨		
		(2) 骨の構造	骨膜 骨質 骨髄 骨端軟骨		

		(3) 骨の働き	支持作用 運動作用 保護作用 造血作用 カルシウム貯蔵作用		
		(4) 関節の一般	不動結合と可動結合 関節の基本構造 骨の数による関節の分類 関節の形状による分類 関節の機能的分類		
		(5) 骨格の概要	頭蓋 脊柱 胸郭 骨盤 上肢帯と上肢 下肢		
	3) 筋系の構造と機能	(1) 筋の種類	骨格筋 平滑筋 心筋		
		(2) 骨格筋の形状	起始、停止 筋頭、筋腹、筋尾		
		(3) 骨格筋の構造	筋膜 筋線維 筋原線維 アクチンフィラメントとミオシンフィラメント (筋収縮の機序)		
		(4) 骨格筋の収縮	単収縮と強縮 等張性収縮と等尺性収縮		
		(5) 筋運動とエネルギー代謝	糖代謝、 クエン酸回路 ATP		
	4) 循環器系の構造と機能	(1) 血液	有酸素運動と無酸素運動 血液の組成 血漿、血漿蛋白、フィブリノゲン 赤血球、白血球、血小板 血液凝固		
		(2) 心臓	心室、心房、弁		

			心内膜、心筋、心外膜		
			刺激伝導系		
			心拍動、心拍出量、脈拍		
		(3)血管	動脈		
			毛細血管		
			静脈、静脈弁		
		(4)血液循環	大循環		
			小循環		
		(5)リンパの循環	組織液		
			リンパとリンパ管		
			リンパ節		
	5)神経系の構造と機能	(1)神経系の概要	刺激、受容器、神経系、効果器		
			中枢神経系、末梢神経系、自律神経系		
			神経細胞、ニューロン		
			シナプス		
			神経線維		
			神経膠細胞		
		(2)脊髄	脊髄の構造		
			前索、側索、後索		
			前角、側角、後角		
		(3)脳	脳幹		
			間脳		
			大脳		
			機能の局在		
			連合線維、交連線維、投射線維、脳梁		
			内包		
			大脳基底核		
			脳室と脳脊髄液		
			錐体路と錐体外路		
			神経伝導路		
		(4)脳脊髄神経	脳神経		
			脊髄神経		
			知覚神経と運動神経		
		(5)自律神経系	交感神経系		
			副交感神経系		

内容: 疾病の成り立ちと予防

目標: あん摩・マッサージ・指圧に必要な健康の保持増進、疾病の成り立ちと予防に関する基礎的な知識を習得させ、これを施術に応用する能力と態度を

1. 総論	1) 意義と目的	(1) 意義	病理学の意義と目的 衛生・公衆衛生学の意義と目的		
	2) 健康と疾病	(1) 健康の概念 (2) 健康管理の活動 (3) 疾病の概念 (4) 疾病の分類	意義、WHOの定義		
			健康教育、健康診断		
			予防医学の意義		
			健康、疾病、半健康状態、未病		
			先天性疾患、後天性疾患		
			局所性疾患、全身性疾患		
			器質的疾患、機能的疾患		
			急性疾患、慢性疾患		
			原発性、続発性、合併症		
			感染症と非感染症		
	(5) 病変と症状	小児疾患、老人性疾患			
		特発性疾患			
		医原病			
病変の意義					
症候(症状)の意義					
自覚症状、他覚症状					
(6) 疾病の経過、予後及び転帰	直接症状、間接症状				
	一般的症状、特徴的(指定)症状				
	疾病の経過: 潜伏期、前駆期、侵襲期、 極期、消退期、回復期				
	予後: 良予後、不良予後、疑予後 転帰: 完全治癒、不治、死				
3) 病院(内因)	(1) 主因と副因 (2) 内因 (3) 素因と体質 (4) 遺伝と染色体異常 (5) 奇形 (6) 内分泌障害				
4) 病因(外因)	(1) 外因 (2) 食物	食物と栄養			
		栄養素と栄養所要量			
		栄養素の供給障害			
		食中毒			
	(3) 物理的因子	機械的(刺激)の局所作用(創傷、挫傷、脳 振盪)			

		(4) 温熱	機械的刺激の全身作用(騒音、振動) 高温の病因作用(熱傷、熱中症) 低温の病因作用(凍傷、凍死)		
		(5) 光線	紫外線の病因作用(DNA障害、雪眼炎、くる病) 赤外線の原因作用(熱傷、白内障) 放射線の病因作用(貧血、免疫不全、生殖障害、皮膚炎、悪性腫瘍の発生)		
		(6) 気圧	高気圧の病因作用(潜函病) 低気圧の病因作用(高山病) 気象病(関節リウマチ、神経痛)		
		(7) 空気	空気の組成 空気の病因作用(内窒息、窒素化合物と光化学スモッグ)		
		(8) 金属	有害金属の病因作用		
		(9) 代謝産物の異常	自家中毒(糖尿病、尿毒症)		
		(10) 化学物質	化学薬品、内分泌攪乱化学物質、植物毒、動物毒、細菌毒、かび毒		
	5) 生物学的因子	(1) 病原微生物	ウイルス: 肝炎ウイルス、水痘ウイルス、ヒト免疫不全ウイルス、インフルエンザウイルス 分裂菌(クラミジア、リケッチア、細菌): ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、結核菌、芽胞を形成する菌 真菌(水虫、タムシ、白癬) 原虫(カリニ肺炎)		
			病原微生物の病因作用: 病原体の毒素、生体の抵抗力 病原微生物に関連する用語: 不顕性感染、日和見感染		
		(2) 寄生虫	概念、病因作用		
		(3) 節足動物	概念、病因作用		
		(4) 病原体媒介動物	種類: 蚊、ダニ、ハエ、ヘビ、ニワトリ、ネズミ、イヌ、ネコ、ウシ(プリオン)		
2. 各論	1) 感染症対策	(1) 感染症の概念と分類			
		(2) 発生様式・要因	感染源、感染経路、感受性		
		(3) 感染源に対する対策			
		(4) 感染経路に対する対策			

		(5) 感受性宿主に対する対策	宿主の健康保持、宿主の予防手段		
		(6) 免疫	自然免疫、人工免疫、能動免疫、受動		
		(7) ワクチン	弱毒生菌ワクチン(弱毒生ワクチン)、死菌ワクチン(不活化ワクチン)、トキソイド(無毒化毒素)、抗毒素血清		
		(8) 予防接種	定期予防接種、任意予防接種、予防接種実施不相当者		
	2) 消毒	(1) 意義、定義(消毒、滅菌、防腐、その他)			
		(2) 消毒の作用起点			
		(3) 対象に適した消毒法の選択			
		(4) 医療廃棄物の処理			
		(5) 医療按摩における消毒	消毒の意義 施術者の手洗い 施術者の手指消毒 施術室の衛生管理		
	3) 循環障害	(1) 充血	意義、WHOの定義 分類 充血の兆候と経過		
		(2) 鬱血	意義、WHOの定義 分類 鬱血の兆候と経過		
		(3) 貧血	全身性貧血と局所性貧血 局所性貧血の分類 局所性貧血の兆候と経過		
		(4) 出血	破綻性出血と漏出性出血 内出血と外出血 出血の結果(ショック)		
		(5) 出血性素質	血小板の異常(血小板減少性紫斑病) 血管壁の異常(アレルギー性紫斑病、壊血病) 凝固因子の異常(血友病、肝疾患、ビタミンK欠乏症)		
		(6) 血栓症			
		(7) 塞栓症			
		(8) 側副循環			
		(9) 水腫	意義		

			分類 水腫の兆候と経過		
4) 退行性病変	(10) 脱水症				
	(1) 萎縮		萎縮の意義 萎縮の正常による分類 萎縮の原因による分類 萎縮の兆候と結果		
	(2) 変性		意義 変性の種類と兆候		
5) 進行性病変	(3) 壊死		意義 壊死の分類 壊疽、アポトーシス 壊死部の転帰		
	(1) 肥大		定義 肥大の正常による分類 肥大の原因による分類		
	(2) 増殖 (3) 再生、化性		定義 定義 再生の分類 再生の法則 再生の機転 人体組織の再生能力 化性の意義		
6) 炎症	(4) 移植 (5) 創傷の治癒 (6) 異物の処理		概要 概要 概要		
	(1) 炎症の概念		定義 炎症における生体防御反応 炎症の原因 急性炎症の経過と転帰 慢性炎症の経過と転帰		
	(2) 炎症の病変		炎症の5代兆候 炎症部位の病理変化		
7) 腫瘍	(1) 定義		良性腫瘍と悪性腫瘍		
	(2) ガンと肉腫				
	(3) 腫瘍の発育と転移				
8) 免疫異状	(1) 免疫の一般		抗原と抗体		

			免疫グロブリン 免疫応答の仕組み アレルギー		
		(2)免疫応答の異常			
		(3)免疫不全			
		(4)自己免疫疾患			
	9)生活習慣病と高齢者	(1)加齢と老化	老化の特徴 老化と疾病		
		(2)生活習慣病	意義、定義 発生要因と進行 主な生活習慣病		

分野: 東洋医学の基礎

内容: 東洋医学概論 46

目標: あん摩・マッサージ・指圧施術の背景となっている長い伝統と経験から成り立っている東洋医学の概念を理解する。

1. 基礎論	1) 沿革	(1) 按摩の歴史的変遷	概要		
	2) 東洋医学の特徴	(1) 東洋医学の考え方	大宇宙と小宇宙(天、地、人) 心身一如、治未病		
	3) 陰陽五行論	(1) 陰陽論の基本概念	一元論と二元論 事物の二つの属性 陰陽過分 陰陽互根 陰陽制約 陰陽消長 陰陽転化 三陰三陽	a. 一元論と二元論 b. 事物の二つの属性 c. 陰陽過分 d. 陰陽互根 e. 陰陽制約 f. 陰陽消長 g. 陰陽転化 h. 三陰三陽	
		(2) 陰陽論の医学的意義	人体の組織構造と陰陽 人体の生理機能と陰陽 人体の病理変化と陰陽 病証の診断と陰陽	a. 人体の組織構造と陰陽 b. 人体の生理機能と陰陽 c. 人体の病理変化と陰陽 d. 病証の診断と陰陽	
		(3) 五行論の基本概念	五行 五行の分類配当(五行の色体表)	a. 五行 b. 五行の分類配当(五行の色体表)	
			分類、原理、五行の特性 五行の相生、相剋	c. 分類、原理、五行の特性 d. 五行の相生、相剋	
		(4) 五行論の医学的意義	五行の特性と臓腑の生理機能 五行の相生、相剋と臓腑間の生理・病理の関係	a. 五行の特性と臓腑の生理機能 b. 五行の相生、相剋と臓腑間の生理・病理の関係	

			五行の相生、相剋と疾病の転変(予後)	c. 五行の相生、相剋と疾病の転変(予後)	
	4) 臟腑経絡論	(1) 臟腑論の概要	五行の相生、相剋と治療 五臟六腑 臟象 奇恒の腑	d. 五行の相生、相剋と治療 a. 五臟六腑 b. 臟象 c. 奇恒の腑	
		(2) 経絡論の概要	経絡の概念 経絡の組成 生体調節系 十二経脈 奇経八脈 十二経筋、皮部 経絡の走行、連接、分布 経絡の表裏関係 流注の順序 臟腑と経絡の関係	d. 臟腑間の関係 a. 経脈の概念 b. 経脈の組成 c. 生体調節系 d. 十二経脈 e. 奇経八脈 f. 十二経筋、皮部 g. 経脈の走行、連接、分布 h. 経脈の表裏関係 i. 流注の順序	
2. 生理観	1) 五臟六腑および経絡の生理機能とその病理	(1) 五臟の生理機能と病理	五臟の生理と病理	a. 五臟の生理と病理	
		(2) 六腑の生理機能と病理	臟と臟との機能的関係 六腑の生理と病理	b. 臟と臟との機能的関係 a. 六腑の生理と病理	
		(3) 奇恒の腑の生理と病理	臟と府の機能的関係 腦の生理と病理	b. 臟と府の機能的関係 a. 腦・子宮の特性	
		(4) 経絡の生理機能と病理	経絡の生理機能と病理	a. 経絡の生理と病理	
	2) 氣、血、津液の生理機能とその病理	(1) 氣の生成と生理機能およびその病理	氣の概念 氣の生成 氣の運行 氣の生理機能 氣の分類(原氣、宗氣、衛氣、營氣) 營衛の概念	a. 氣の概念 b. 氣の生成 c. 氣の運行 d. 氣の生理機能 e. 氣の分類(原氣、宗氣、衛氣、營氣)	
		(2) 血の生成と生理機能及びその	氣の病理 血の概念 血の生成 血の運行 血の生理機能 血の病理	g. 氣の病理 a. 血の概念 b. 血の生成 c. 血の運行 d. 血の生理機能 e. 血の病理	

		(3)津液の生成と生理機能及びその病理	津液の概念	a. 津液の概念	
			津液の生成	b. 津液の生成	
			津液の運行	c. 津液の運行	
			津液の分類	d. 津液の分類	
			津液の病理	e. 津液の病理	
		(4)気、血、津液の相互関係	気と血の関係	a. 気と血の関係	
			気と津液の関係	b. 気と津液の関係	
			津液と血の関係	c. 津液と血の関係	
3. 疾病観	1) 病因論	(1)発病の原理と病因	人体の正気と邪の関係		
			病因の概念		
			病因の分類(内因、外因、不内外因、三毒説)		
		(2)内因	発病のメカニズム		
			内因の概念	a. 内因の概念	
			七情	b. 七情	
			七情と臓腑の関係	c. 七情と臓腑の関係	
			七情と内傷	d. 七情と内傷	
		(3)外因	外因の概念	a. 外因の概念	
			六気と六淫	b. 六気と六淫	
			六淫の作用	c. 六淫の作用	
			六淫と外感病	d. 六淫と外感病	
			疫癘	e. 疫癘	
		(4)不内外因	不内外因の概念	a. 不内外因の概念	
			飲食労倦	b. 飲食労倦	
			房事、外傷、寄生虫	c. 房事、外傷、寄生虫	
			痰と瘀血	d. 痰と瘀血	
	2) 病証	(1)経絡病症	肺経病証から始まる十二経病証	a. 肺経病証から始まる十二経病証	
4. 診断論	1) 四診法	(1)四診法の概要	東洋医学の診断法の特徴	a. 東洋医学の診断法の特徴	
			診断法の種類	b. 診断法の種類	
			診断の総合	c. 診断の総合	
		(2)切診	切経	a. 切経	

内容:経絡経穴概論

目標:経絡、経穴、その他の反応点の示す現象を正確にとらえる能力を養う。

1. 総論	1) 経絡の概要	(1) 経絡の意義 (2) 経絡の分類	経絡の機能 経脈 絡脈 十四経 正穴と奇穴		
2. 各論	2) 経穴の概要	(1) 経穴の一般			
	1) 任脈	(1) 経絡流注と主な経穴			
	2) 督脈	(1) 経絡流注と主な経穴			
	3) 手の太陰肺経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	4) 手の陽明大腸経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	5) 足の陽明胃経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	6) 足の太陰脾経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	7) 手の少陰心経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	8) 手の太陽小腸経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	9) 足の太陽膀胱経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	10) 足の少陰腎経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	11) 手の厥陰心包経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	12) 手の少陽三焦経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	13) 足の少陽胆経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	14) 足の厥陰肝経	(1) 経絡流注と主な経穴			
	15) 奇穴	(1) 主な奇穴			
	16) 経穴のまとめ	(1) 体表の部位別に整理した主な	頭頸部 背腰部 胸腹部 上肢帯・上肢 殿部・下肢		

内容: 按摩マッサージ指圧理論

36

目標: 診察に基づいて、あん摩・マッサージ・指圧施術の適否を判断し、施術を安全かつ適切に行う能力と態度を育てる。

1. 概論	1) 按摩マッサージ指圧の意義	(1) あん摩 (2) マッサージ (3) 指圧 (4) その他の徒手による治療法	定義、沿革、特徴 定義、沿革、特徴 定義、沿革、特徴 母国の手技療法		
	2) 按摩の基礎知識	(1) 基本手技とその生理作用	軽擦法(按撫法) 揉捏法(揉捻法) 圧迫法 振せん法 叩打法		

			曲手 運動法		
	3) マッサージの基礎知	(1) 種類 (2) 基本手技と生理作用	軽擦法 揉捏法 強擦法(按捏法) 圧迫法 振せん法 叩打法		
		(3) 運動法の目的と生理作用	自動運動 他動運動 抵抗運動 矯正法		
	4) 指圧の基礎知識	(1) 押圧操作とその生理作用	3原則 圧の強さによる圧法の種類 圧の加え方による圧法の種類 押圧に使用する部位による圧法の種類		
		(2) 運動操作とその生理作用	目的		
2. 按摩マッサージ指圧 の臨床応用	1) 刺激量と感受性	(1) 刺激量	あん摩マッサージ指圧の刺激量を決定 する条件: 施術部位、手技、手技に用い る部位、時間、補瀉		
		(2) 感受性	感受性の要素: 年齢、性別、体質、栄養 状態、経験、部位、基礎疾患、精神状		
	2) 適応と禁忌	(1) 適応 (2) 禁忌	適応の考え方 禁忌の考え方		
3. リスク管理	1) リスク管理の基本	(1) リスクマネジメントの考え方 (2) 医療事故、過誤、有害事象	医療事故、過誤、有害事象の定義 インシデント・レポート		
	2) リスク管理の実際	(1) 施術室の構造・設備・物品 (2) 治療機器などの点検・整備 (3) 患者満足度に関わる要因	床材、ベッドや椅子の選択 定期点検、使用前の動作確認 清潔な身だしなみ、丁寧な言葉遣い、共 感的態度		
		(4) 適切な人の配置と動線	インフォームド・コンセント 動線を考慮した物品配置		
	3) 医療事故と有害事象 の予防対策	(1) あん摩マッサージ指圧施術の 医療事故と有害事象	骨折 捻挫、挫傷		

			症状の増悪 皮膚炎 転倒 ベッドからの転落 物損事故		
		(2)その他の有害事象			
	4)感染症対策	(1)手洗い、消毒の重要性 (2)手洗い、消毒の実際	手指洗浄のしかた 手指消毒のしかた		
		(3)器具の消毒・保管			
		(4)按摩マッサージ指圧と関連の深い主な感染症	肝炎、エイズ、成人T細胞白血病、集団感染の危険の高い感染症(結核・インフルエンザ) 日和見感染		
4. 按摩マッサージ指圧の治効の基礎	1)刺激の伝達	(1)痛み感覚の受容と伝達 (2)温度感覚の受容と伝達 (3)触圧覚の受容と伝達 (4)筋の伸張・振動刺激の受容と伝達	痛みの分類、受容器、内因性発痛物質、求心性神経線維、伝導路、熱痛、温度感覚の種類、受容器、求心性神経線維、伝導路 触圧覚の種類、受容器、求心性神経線維、伝導路 筋の受容器、求心性神経線維、伝導路		
	2)刺激と反射	(1)体性－運動反射 (2)自律神経反射	伸張反射 逃避反射 内臓－内臓反射 内臓－体性反射 体性－内臓反射		
	3)按摩マッサージ指圧刺激と反応	(1)主な治療的作用 (2)特に運動法の治療的作用 (3)刺激部位(局所)の反応	興奮作用 鎮静作用 誘導作用 鎮痛作用 防衛作用 免疫作用 転調作用 反射作用 矯正作用 筋の過緊張を緩和し循環を改善する反		

5. 按摩マッサージ指圧療法 の一般治効理論	1) 身体組織・器官への影響	(1) 皮膚への影響			
		(2) 脂肪組織への影響			
		(3) 骨組織への影響			
		(4) 筋組織への影響			
		(5) 関節への影響			
		(6) 神経系への影響	知覚神経への影響 運動神経への影響		
		(7) 循環系への影響	心臓への影響 血管、リンパ管への影響 血液への影響		
		(8) 内臓への影響			
	2) 自律神経および内分泌系への影響	(1) 自律神経の概要	交感神経、副交感神経、内臓求心性神経		
		(2) 按摩マッサージ指圧の血流に及ぼす影響	軸索反射 体性－自律反射		
3) 按摩マッサージ指圧治療による生体防御機構に及ぼす影響	(1) 刺激局所の反応				
	(2) 中枢における反応				

分野: 臨床医学
 内容: 臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論
 目標: 臨床医学やリハビリテーションに関する基礎的な知識を習得させるとともに、各症状の病態生理、考えられる疾患と鑑別診断の要点を理解し施術を適切に行う能力と態度を育てる。

254

運動器系症状				
1. 頸肩腕痛	1) 頸肩四肢の構造と機能	(1) 頸椎		
		(2) 頸部の関節、靭帯		
		(3) 頸肩部の筋		
		(4) 頭頸部、上肢の循環		
		(5) 頸肩四肢の神経		
2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			16

		(2) 主要な疾患・病態	肩こり、頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、胸郭出口症候群(圧迫型・牽引型)、頸肩腕症候群、軟部組織の障害・椎間関節や椎間板の障害・関連痛、上肢の症状を伴うものについては神経障害(神経根、腕神経叢、脊髄)、循環障害、腫瘍性疾患(脊髄腫瘍、パンコースト腫瘍)	
		(3) 適応と禁忌の考え方		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴		
	4) 診察の実際	(1) 頸部の運動と症状との関係		
		(2) ROM測定		
		(3) 骨・筋の触察		
		(4) 切経		
		(5) 整形外科的徒手検査		
		(6) 神経学的検査		
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針		
		(2) 病態別処方例		
2. 肩関節痛	1) 肩関節の構造と機能	(1) 肩関節		16
		(2) 肩関節の運動に関係する筋		
		(3) 神経		
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念		
		(2) 主要な疾患・病態	肩関節周囲炎、腱板炎・肩峰下滑液包炎、上腕二頭筋長頭腱炎、D14腱板断裂、パンコースト腫瘍、虚血性心疾患、病変部位、拘縮の有無の鑑別	
		(3) 適応と禁忌の考え方		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴		
	4) 診察の実際	(1) 肩関節の運動と症状との関係		
		(2) ROM測定		
		(3) 骨・筋の触察		
		(4) 切経		
		(5) 整形外科的徒手検査		
		(6) 神経学的検査		
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針		
		(2) 病態別処方例		
3. 上肢痛	1) 上肢の構造と機能	(1) 上肢の筋		16

		(2) 上肢の神経の走向 (3) 神経絞扼部位の構造 (4) 上肢の循環 (5) 上肢の交感神経支配			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	絞扼性神経障害(後方四角腔での腋窩神経障害、円回内筋症候群、手根管症候群、肘部管症候群、ギオン管症候群)、CRPS、循環障害		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 上肢の運動と症状との関係 (2) ROM測定 (3) 骨・筋・神経の触察 (4) 切経 (5) 整形外科的徒手検査 (6) 神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
4. 腰下肢痛	1) 腰下肢の構造と機能	(1) 腰椎 (2) 骨盤 (3) 腰仙骨部の関節・靭帯 (4) 腰下肢の筋 (5) 腰下肢の神経 (6) 腰下肢の循環 (7) 脊柱の湾曲 (8) 腰椎骨盤リズム			16
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	筋・筋膜性腰痛、変形性腰椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、椎間関節性腰痛、いわゆる腰痛症、梨状筋症候群、内臓性疾患、腫瘍性疾患、炎症性疾患、坐骨神経痛、絞扼神経障害、閉塞		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			

	4) 診察の実際	(1) 脊柱の彎曲異常の観察 (2) 腰部の運動と症状との関係 (3) 骨・筋・神経・動脈拍動の触察 (4) 切経 (5) 整形外科的徒手検査 (6) 神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
5. 股関節痛	1) 股関節の構造と機能	(1) 股関節 (2) 股関節の運動に関係する筋 (3) 神経			12
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念 (2) 主要な疾患・病態 (3) 適応と禁忌の考え方	変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、大腿骨頸部骨折		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 股関節の運動と症状との関係 (2) ROM測定 (3) 骨・筋の触察 (4) 切経 (5) 整形外科的徒手検査 (6) 神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
6. 膝関節痛	1) 膝関節の構造と機能	(1) 膝関節 (2) 膝関節の運動に関係する筋 (3) 神経			16
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念 (2) 主要な疾患・病態 (3) 適応と禁忌の考え方	変形性膝関節症、半月板損傷、靭帯損傷、タナ障害、骨壊死、リウマチ		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 膝関節の運動と症状との関係 (2) ROM測定 (3) 骨・筋の触察			

		(4)切経 (5)整形外科的徒手検査 (6)神経学的検査			
	5)施術の実際	(1)施術の方針 (2)病態別処方例			
7. 関節痛	1)対象関節の構造と機能	(1)主な関節の形態と運動 (2)手関節、手指関節の構造と機能			4
	2)主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1)概念 (2)主要な疾患・病態 (3)適応と禁忌の考え方	関節リウマチ、腱鞘炎(de Quervain病、弾撥指)、感染性関節炎、痛風、膠原病		
	3)東洋医学的考え方	(1)関連経脈と主な経穴			
	4)診察の実際	(1)対象関節の運動と症状との関 (2)ROM測定 (3)骨・筋の触察 (4)切経 (5)整形外科的徒手検査 (6)神経学的検査			
	5)施術の実際	(1)施術の方針 (2)病態別処方例			
神経系疾患					
1. 頭痛	1)頭頸部の構造と機能	(1)頭頸部の筋 (2)頭頸部の循環 (3)頭頸部の神経			12
	2)主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1)概念 (2)主要な疾患・病態 (3)適応と禁忌の考え方	緊張型頭痛、片頭痛、腫瘍性・脳血管障害等の頭蓋内病変による頭痛		
	3)東洋医学的考え方	(1)関連経脈と主な経穴			
	4)診察の実際	(1)医療面接 (2)筋・血管・神経の触察 (3)切経 (5)整形外科的徒手検査 (6)神経学的検査			
	5)施術の実際	(1)施術の方針			

		(2)病態別処方例			
2. 顔面痛	1)顔面部の構造と機能	(1)顔面部の骨・筋・神経 (2)顔面部の循環			12
	2)主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1)概念 (2)主要な疾患・病態 (3)適応と禁忌の考え方	特発性三叉神経痛、副鼻腔炎		
	3)東洋医学的考え方	(1)関連経脈と主な経穴			
	4)診察の実際	(1)医療面接 (2)筋・血管・神経の触察 (3)切経 (4)神経学的検査			
	5)施術の実際	(1)施術の方針 (2)病態別処方例			
3. 顔面麻痺	1)顔面部の構造と機能	(1)顔面神経の走行 (2)表情筋とその神経支配			6
	2)主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1)概念 (2)主要な疾患・病態 (3)適応と禁忌の考え方	ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群、中枢性・末梢性の鑑別		
	3)東洋医学的考え方	(1)関連経脈と主な経穴			
	4)診察の実際	(1)医療面接 (2)筋・神経の触察と麻痺の評価 (3)切経 (4)神経学的検査			
	5)施術の実際	(1)施術の方針 (2)病態別処方例			
4. 中枢神経性麻痺	1)中枢神経系	(1)脳の構造と機能 (2)脊髄の構造 (3)錐体路と錐体外路			10
	2)主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1)概念 (2)主要な疾患・病態 (3)適応と禁忌の考え方	片麻痺、脳性麻痺、脊髄損傷		
	3)東洋医学的考え方	(1)関連経脈と主な経穴			
	4)診察の実際	(1)医療面接			

		(2)筋・神経の触察と麻痺の評価 (3)切経 (4)神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
5. 末梢神経性麻痺	1) 対象の末梢神経性麻痺と関係する神経	(1) 上肢の神経の走行と支配筋群 (2) 下肢の神経の走行と支配筋群 (3) 脳の構造と機能、錐体路			10
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念 (2) 主要な疾患・病態 (3) 適応と禁忌の考え方	橈骨神経・正中神経・尺骨神経・腓骨神経・脛骨神経の麻痺、多発性ニューロパ		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接 (2) 筋・神経の触察と麻痺の評価 (3) 切経 (4) 神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
6. 睡眠障害	1) 睡眠のメカニズム	(1) レム睡眠とノンレム睡眠			4
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念 (2) 主要な疾患・病態 (3) 適応と禁忌の考え方	単純性不眠症、神経症性不眠症		
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接 (2) 切経 (3) 神経学的検査			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針 (2) 病態別処方例			
呼吸器系の症状					10
1. 呼吸困難、息切れ、咳、痰	1) 呼吸器系の構造と機能	(1) 呼吸器系の構造 (2) 肺でのガス交換 (3) 気管・気管支の自立神経支配			

	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	気管支喘息、COPD、呼吸器感染症		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 肩背部胸腹部の筋の触察			
		(4) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
循環器系の症状					
1. 動機、胸部痛、血圧異常	1) 循環器系の構造と機能	(1) 心臓			16
		(2) 大循環			
		(3) 小循環			
		(4) 血圧とその調節			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	不整脈、虚血性心疾患、本態性高血圧症、本態性低血圧症、起立性調節障害		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 肩背部胸腹部の筋の触察			
		(4) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
消化器症状					
1. 食欲不振、腹痛、悪心・嘔吐	1) 消化器系の構造と機能	(1) 消化器系の構造			10
		(2) 消化器系の自立神経支配			
		(3) 消化と吸収			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			

		(2) 主要な疾患・病態	機能性ディスぺプシア、胃炎、胃十二指腸潰瘍、慢性肝障害、急性腹症、腫瘍性疾患、膵炎、胆嚢炎、腸炎、機能性腸		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 腹部の触診、打診			
		(4) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
2. 便秘と下痢	1) 消化器系の構造と機	(1) 消化管の運動			6
		(2) 排便のメカニズム			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	機能性便秘(弛緩性・痙攣性・直腸性)、過敏性腸症候群、腫瘍、慢性炎症性疾		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方				
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 腹部の触診、打診			
		(4) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
泌尿器科・女性科の症					
1. 泌尿器系の症状	1) 泌尿器系の構造と機	(1) 腎臓			10
		(2) 尿路			
		(3) 泌尿器系の神経支配			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	慢性前立腺炎、前立腺肥大、腫瘍性疾患、尿路感染症		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方				
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			

		(3)腹部の触診、打診			
		(4)切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
2. 月経異常、妊娠中のマイナートラブル	1) 女性生殖器の構造と機能	(1) 外生殖器			10
		(2) 内生殖器			
		(3) 月経のメカニズム			
		(4) 妊娠			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	機能性無月経、月経前緊張症、月経困難症、腫瘍性疾患(子宮筋腫、悪性腫瘍)、子宮内膜症、つわり、妊娠中の腰		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 腰臀部、腹部の触診			
		(4) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
その他の症状					
1. 自律神経失調症	1) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			4
		(2) 主要な疾患・病態	自律神経失調症、いわゆる冷え症、更年期障害、基礎疾患との鑑別(更年期障害、甲状腺疾患、その他)		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	2) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	3) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 自覚症状局所の診察			
		(4) 切経			
	4) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			

2. 眼精疲労	1) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			4
		(2) 主要な疾患・病態	調節機能低下による眼精疲労、VDT症候群、緑内障、白内障		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	2) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	3) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 眼科周囲の触察			
		(4) 切経			
	4) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
3. むくみ	1) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			4
		(2) 主要な疾患・病態	局所の循環障害に浮腫、全身性浮腫(内臓性・低栄養性・内分泌性)・静脈		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	2) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	3) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 眼科周囲の触察			
		(4) 切経			
	4) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
生活習慣病と医療按摩					10
1. 生活習慣病	1) 医療按摩の意義				
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	メタボリックシンドローム、糖尿病、骨粗		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 切経			
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
高齢者と医療あん摩					10

1. 医療按摩の意義	1) 高齢者の心身機能の特徴	(1) 意義			
		(2) 身体的特徴			
		(3) 心理的特徴			
	2) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	(1) 概念			
		(2) 主要な疾患・病態	廃用性症候群、認知症、転倒、尿失禁、生命に関わる重篤な疾患の鑑別		
		(3) 適応と禁忌の考え方			
	3) 東洋医学的考え方	(1) 関連経脈と主な経穴			
	4) 診察の実際	(1) 医療面接			
		(2) バイタルサインの確認			
		(3) 運動機能の評価			
	(4) 切経				
	5) 施術の実際	(1) 施術の方針			
		(2) 病態別処方例			
スポーツ領域における医療按摩					10
1. スポーツ障害の概要	1) スポーツ傷害の分類	(1) スポーツ外傷、スポーツ傷害			
	2) スポーツ傷害の発生要因	(1) 内的要因、外的要因、環境要因			
	3) スポーツ傷害の応急処置	(1) RICEの処置			
	4) スポーツ領域における医療あん摩の意義	(1) 治療、予防、コンディション調整、記録向上			
		(2) スポーツ外傷及びスポーツ障害の処置			
	5) 主なスポーツ傷害に対する医療あん摩治療	(1) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方	主要な疾患・病態(野球肩、テニス肘、ランナー膝、疲労骨折、アキレス腱炎、足底腱膜炎、足関節捻挫)		
		(2) 東洋医学的考え方	適応と禁忌の考え方		
		(3) 診察の実際	医療面接		
			バイタルサインの確認		
			障害局所の診察		
			運動機能の評価		
			切経		
		(4) 施術の実際	施術の方針		

			病態別処方例		
産業衛生における医療按摩					10
1. ヘルスキーパーの業務と役割	1) 産業疲労と産業効率	(1) 物理的環境要因と産業疲労 (2) 産業疲労の予防対策 (3) ヘルスキーパーの役割と医療按摩の意義		日本におけるヘルスキーパー制度と現状、役割と実際	
	2) 職業に起因する疾患・愁訴に対する理療	(1) 主な疾患・症状の現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的考え方 (3) 診察の実際		主要な疾患・病態(VDT症候群、腰痛、疲労・倦怠感、基礎疾患の鑑別) 適応と禁忌の考え方	
		(4) 施術の実際		医療面接 バイタルサインの確認 症状局所の診察 切経 施術の方針 病態別処方例	
分野: 手技療法の基礎					160
目標: あん摩・マッサージ・指圧に関する実際的な知識と基礎的な技術を習得させ、施術を適切かつ効果的に行う能力を育てる。					
按摩基礎実技					120
1. 施術の準備	1) 手洗い 2) 使用する用具				
2. 全身施術の実際	1) 肩背部 2) 上肢 3) 頸部 4) 腰部 5) 殿下肢 6) 頭部 7) 腹部				
指圧基礎実技					20
1. 押圧操作の基礎	1) 各種押圧操作 2) 肩背腰部の指圧				
マッサージ基礎実技					20
1. 筋肉マッサージの基礎	1) 前腕・下腿のマッサージ				

	2) 関節マッサージ(肩関節)				
	3) ROM訓練				
分野: 手技療法の臨床					334
目標: あん摩・マッサージ・指圧に関する知識と技術を総合的に習得させ、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を育てる。					
臨床実習					240
1. 患者施術の実際	1) 医療面接				
	2) 身体診察				
	3) 施術の実践				
	4) 効果の判定				
	5) 記録				
総合実習					20
1. 局所施術の組み立	1) 頸肩部中心の施術				
	2) 腰下肢中心の施術				
2. 手技に併用する物理療法	1) 温熱療法				
カンファレンス					50
1. 症例検討	1) 病態把握とリスク管				
	2) 施術法と施術効果の検討				
経営実習					
1. 施術所経営の基礎					20
				合計	1010

表3 初級医療按摩カリキュラム(案) 各科目の時数配当

	時数		時数
分野:現代医学の基礎			
内容:人体の構造と機能			
人体の構造と機能		呼吸器系の症状	
1. 生体観察と体表解剖	20	1. 呼吸困難、息切れ、咳、痰	10
2. 人体の構造と機能の概要	60	循環器系の症状	
人体の構造と機能 小計	80	1. 動機、胸部痛、血圧異常	16
疾病の成り立ちと予防	48	消化器症状	
現代医学の基礎 小計	128	1. 食欲不振、腹痛、悪心・嘔吐	10
分野:東洋医学の基礎		2. 便秘と下痢	6
東洋医学概論	46	消化器系の症状 小計	16
経絡経穴概論	46	泌尿器科・女性科の症状	
按摩マッサージ指圧理論	36	1. 泌尿器系の症状	10
東洋医学の基礎 小計	128	2. 月経異常、妊娠中のマイナートラブル	10
分野:臨床医学		泌尿器科、女性科の症状 小計	20
臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論		その他の症状	
運動器系症状		1. 自律神経失調症	4
1. 頸肩腕痛	16	2. 眼精疲労	4
2. 肩関節痛	16	3. むくみ	4
3. 上肢痛	16	その他の症状 小計	12
4. 腰下肢痛	16	生活習慣病と医療按摩	10
5. 股関節痛	12	高齢者と理療	10
6. 膝関節痛	16	スポーツ領域における医療按摩	10
7. 関節痛	4	産業衛生における医療按摩	10
運動器系症状 小計	96	臨床医学 総計	264
神経系の症状		分野:手技療法の基礎	
1. 頭痛	12	按摩基礎実技	120
2. 顔面痛	12	指圧基礎実技	20
3. 顔面麻痺	6	マッサージ基礎実技	20
4. 中枢神経性麻痺	10	手技療法の基礎 総計	160
5. 末梢神経性麻痺	10	分野:手技療法の臨床	
6. 睡眠障害	4	臨床実習	240
神経系の症状 小計	54	総合実習	20
		カンファレンス	50
		経営実習	20
		手技療法の臨床 総計	330
		合計	1010

